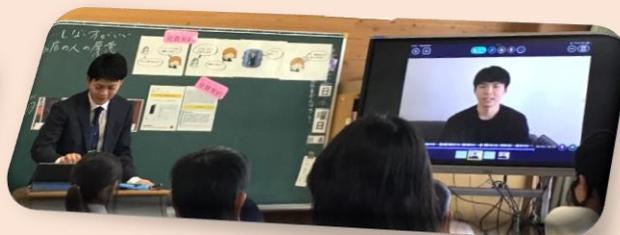


第 54 回 熊本県小学校家庭科教育研究大会
熊本市大会

報 告 書

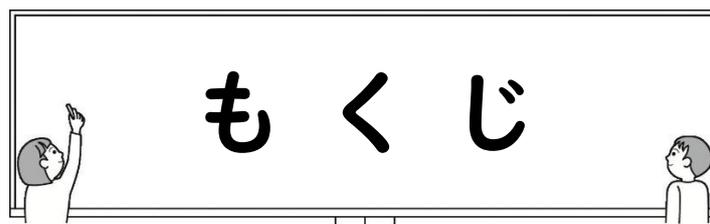
大会主題

「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」
～課題設定と振り返りの工夫を通して～



期日 令和5年（2023年）11月22日（水）
会場 熊本市立川上小学校

熊本県小学校家庭科教育研究会



1 あいさつ P1

熊本県小学校家庭科教育研究会 会長 古家慎也

熊本市小学校家庭科教育研究会 会長 村上利美

2 大会要項(概要) P2

3 研究のまとめ P3~17

題材 全体	I 研究の実際	
	(1) 題材の目標	6年 食生活 P3~6
	(2) 研究の視点	
	(3) 成果と課題	6年 課題と実践 P7~10
	(4) 指導と評価の実際	
県大会 当日	II 公開授業・授業研究会	5年 衣生活 P11~14
	公開授業	
	1 公開授業の様子	5年 消費・環境 P15~18
	授業研究会	
	1 研究協議	
	2 指導助言	
	III 全体会 P19	
	1 研究発表	
	2 指導講評	

4 運営組織図 P20

5 今後の県大会について P21

ごあいさつ

熊本県小学校家庭科教育研究会

会長 古家 慎也

第54回熊本県小学校家庭科教育研究大会を、4年ぶりに参集の形で開催することができ大変うれしく思います。令和元年度の全国大会（熊本大会）をこの熊本市において開催して以来となります。

近年、研究大会の開催事情は大変厳しい状況にあります。そこで、熊本県小学校家庭科教育研究会では、持続可能な県大会の開催となるよう、今回から県内を6ブロックに分けて開催することにしました。さらに、3～4年に一度、熊本市に担当してもらい、他のブロックは、熊本市の実践の追試を可能とすることで、少しでも各支部の負担を軽減していきたいと考えています。

その意味において、今回の熊本市大会は、今後のモデルとなる重要な大会といえます。一人一台端末を有効活用した授業スタイルへの転換も見逃せませんが、「生活をよりよくする」という生活の基盤を学ぶ家庭科という教科の意義を大切にし、県内の研究が今後さらに、改良、発展、継続していくことを願っています。

本大会の会場校であります川上小学校は、今年度、文科省のリーディングDX事業の指定を受け、ICT教育に力を入れたり、児童主体の活動を推進し、ボランティア活動や緑化活動を奨励しています。今回、家庭科教育における研修の機会もいただき、学び多き大会となりましたことに感謝しております。

最後に、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた熊本市家庭科教育研究会の皆様へ感謝するとともに、これまでご指導いただきました関係機関の皆様へ心から感謝を申し上げます。

ごあいさつ

熊本市小学校家庭科教育研究会

会長（実行委員長） 村上 利美

令和5年度第54回熊本県小学校家庭科教育研究大会が、熊本市の地で開催できますことに心から喜びを感じているところです。さて、学習指導要領小学校家庭科の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。」です。

本大会におきましては、大会主題を「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」とし、授業で共通の課題解決に取り組む中で、子どもが自分の生活と関連づけ主体的に学び、探究します。振り返りではICTを効果的に活用し学んだことを蓄積し、よりよい暮らしの工夫につなげます。変化の激しい社会を生き抜く子どもたちの将来につながるよう取り組みます。

熊本市大会は、新型コロナウイルス感染拡大から4年ぶりの対面での開催となりました。久しぶりに対面し協議する中で、それぞれの実践に共感するだけでなく仲間のいる温かさや安心感を味わうことのできる大会にできればと感じております。

最後になりましたが、本大会の開催においてご支援を賜りました熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、日本教育公務員弘済会熊本支部の皆様、指導・助言をいただきました熊本大学大学院教育学研究科 八幡彩子 教授をはじめとする先生方、大会の研究・運営等のご協力いただきました関係の皆様方に、深く感謝の意を申し上げます。ごあいさついたします。

第54回 熊本県小学校家庭科教育研究大会（熊本市大会）

【大会主題】 「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」
～課題設定と振り返りの工夫を通して～

【期 日】 令和5年（2023年）11月22日（水）

【会 場】 熊本市立川上小学校

【日 程】



12:15	12:40	12:50	13:35	13:45	14:30	14:40	15:25	15:35	16:30
受付	ウェルカムビデオ	公開授業① 45分	移動 10分	公開授業② 45分	移動 10分	授業研究会 45分	休憩 10分	全体会 (挨拶、研究発表、講評、次年度案内) 55分	
テント	各教室	各教室（5の2） （6の1）		各教室（5の1） （6の2）		授業研究会教室（4教室） *全体会は配信会場からオンラインで各教室へ配信			

*受付後、直接公開授業①会場へ移動してください。開会行事は行わず、公開授業①開始10分前にウェルカムビデオの上映を行います。

(1) 公開授業① 12:50～13:35

年・組	領域	題材	授業者	指導助言者	協力者	司会者
5年2組	衣生活	ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活	川上小学校 伊田 朱里 教諭	熊本市教育センター 廣瀬 文子 主任指導主事	春竹小学校 堀川 誠治 校長	春竹小学校 中村 晴海 教諭
6年1組	食生活	まかせてね 今日の食事	川上小学校 板倉 富美江 教諭 長尾 豊美 栄養教諭	熊本大学 増田 仁 准教授	川口小学校 川中 雅代 校長	白山小学校 清水太佳子 教諭

(2) 公開授業② 13:45～14:30

年・組	領域	題材	授業者	指導助言者	協力者	司会者
5年1組	消費・環境	持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	託麻原小学校 松島 慧 教諭	熊本大学 八幡 彩子 教授	城山小学校 松本 至道 校長	託麻原小学校 金子 紀子 教諭
6年2組	課題と実践	生活を変える チャンス!	泉ヶ丘小学校 小園 裕太郎 教諭	熊本大学 中迫 由実准教授	桜木東小学校 中嶋 哲也 校長	若葉小学校 牛島めぐみ 教諭

(3) 授業研究会 14:40～15:25（参加領域は受付でご確認ください。）

(4) 全体会 15:35～16:30（授業研究会会場にて、そのままご参加ください。）

- ①開会 ②県会長挨拶 ③実行委員長挨拶 ④関係者紹介
⑤研究発表 熊本市立春竹小学校 教諭 中村晴海
熊本市立若葉小学校 教諭 牛島めぐみ
⑥指導・講評 熊本県立教育センター指導主事 高宮かおり 様
⑦次年度開催ブロック挨拶【山鹿・菊池】 合志市立合志南小学校 校長 土井昭子
⑧閉会



主催 熊本県小学校教育研究会家庭科部会 熊本市小学校家庭科教育研究会
後援 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 日本教育公務員弘済会熊本支部

学年・内容	6年	食生活
題材名	まかせてね 今日の食事	

(1) 題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。 ・ 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。 ・ 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定する。 ・ 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。 ・ 自分の生活を振り返って改善したり、工夫したりして実践しようとしている。

(2) 研究の視点

視点1	課題設定	設定家族の食生活と自分自身の食生活を比較しながら振り返る活動に加え、家族へのインタビューを行うことで、なりたい自分を明確し、学習のゴールを設定する。
視点2	指導の工夫	自分や家族の健康を考えた献立づくりにおいては、設定家族の献立について、1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。また、調理実習や実践報告会においては、調理の過程や作った献立を画像や動画で記録したものを発表し合う。これらを通して、自分の考えを表現したり他者の考えを学んだりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
視点3	振り返り	生活の中から課題を見だし、学んだことを生活に生かすという教科の特質から「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行う。また、自分の生活の変化や成長を実感できるようにするためにロイロノートやメタモジを活用し、題材を通して振り返りを蓄積していく。さらに調理の様子や映像を残しておき、技能の習得状況を把握するとともに、改善点ができるようにする。
ICT活用		1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。

(3) 成果（○）と課題（△）

- 設定家族や自分や家族の食生活を見つめる活動を行いながら課題づくりを行ったことで、学習のゴールが明確になり、見通しをもって学習を進めることができた。
- 献立づくりにおいて、1食分の献立作成プログラム（熊本市教育センター作成）の活用と、栄養教諭の話から、栄養のバランスを考えた献立の立て方について理解を深めることができた。
- 家庭との連携をとりながら学習を進めたことで、家庭実践をスムーズに行うことができた。
- △家庭実践後の実践報告会では評価・改善したことを生活の中で生かす計画を立てる活動を行うが、継続した取り組みに対する評価については今後の課題である。

(4) 指導と評価の実際 (10時間取り扱い ●本時3/10)

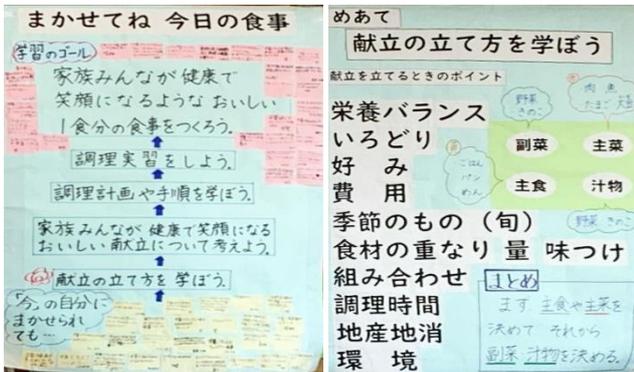
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
家族のために健康によい1食分の食事を作ろう	1	1	●学習課題を設定する。 設定家族の食生活と自分自身の食生活を比較しながら振り返る活動に加え、家族へのインタビューを行うことで、食生活についての課題を見だし、学習のゴールを設定する。	【主】振り返りシート
	2	1	○主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて献立を立てることや、献立を立てる順番を理解する。	【知】振り返りシート
		1 (本時)	●1食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解する。 	【知】振り返りシート
	3	3	○ゆでる、いためる調理を組み合わせた「野菜のベーコン巻き」の調理計画を立てる。 ○調理する。(一人調理) 	【思】学習シート 【主】振り返りシート
		2	○家族のために作る1食分の献立を考え、調理計画を立てる。(副菜・汁物) 	【思】行動 【主】振り返りシート
	課外		家庭実践	
4	2	○家庭実践報告書を作成し、自分の家庭実践を振り返る。実践報告会を通して、これからの食生活に生かす計画を立てる。 	【思】報告書 【主】振り返りシート	

II 公開授業・授業研究会

公開授業 第6学年 「まかせてね 今日の食事」

1 公開授業の様子

題材の導入で、児童と保護者の事前アンケート結果をもとに自分達の食生活における問題に気付かせ、なりたい自分の姿を具体的にイメージさせた後、学習に入っている。本題材では、「家族みんなが健康で、笑顔になるような美味しい1食分の食事を作ろう」を学習のゴールに設定し、献立を立て方（食事には主食・主菜・副菜・汁物があり、主食→主菜→副菜や汁物の順で立てていく）ことなどを学んでいる。



本時では、授業の初めに設定家族の太郎さんが主食と主菜のみの献立を見直し、立て直した献立を見て気付きを出し合った。

「前よりは良くなったけど、まだ・・・」

「緑が少なく、黄色が多い。」

「バランスが悪い。」

という発言を取り上げ、

「なぜバランスが悪いといけないの？」

と問うことで、健康につなげるためには栄養のバランスが重要であることを押さえ、太郎さんの献立では栄養のバランスに問題があることを確認した。その後、本時のめあて「栄養のバランスを考えた献立を立てよう」を設定し、学習に入った。

次に、太郎さんの主食と主菜は変更せず献立をよくするにはどのようにしたらよいかを全体で考え、副菜や汁物に着目させた。その後、熊本市教育センター作成の献立作成プログラムと栄養



論協力のもと作成した副菜カードを用いてバランスのよい献立にするにはどのようにすればよいか改善点を個人で考え、その後グループで意見交流を行った。子どもたちからは、

「緑が少ないから、海藻サラダに変えました。」

「私は、ツナサラダに変えた。なぜかというところ緑が少ないから増やした方がいいのもあるけど、主菜が唐揚げで鶏だから、ツナで魚の赤も入れた方がいいかと思って入れました。」

「緑だけじゃなく、赤も少し少なめだったから赤も入れた方がいいと思った。」

「サラダで緑を増やしたら、赤が少なくなったので、味噌汁の実で赤を増やしました。」

などの意見が出されていた。

最後に子どもたちから出された改善点を基に、全体でいろいろな色の食べ物を組み合わせた方が良いことを確認した後、バランスのよい献立を作るためにはもう一つポイントがあることを伝え栄養教諭からの話に入った。弁当箱で黄・赤・緑のバランスをとらえたことで、3:1:2の栄養のバランスを視覚的にも捉えることができ、学びを深めることができた。



授業研究会 第6学年 食生活

1 研究協議

研究協議会では、『児童が主体的に学ぶ「1食分の献立作り」の授業の在り方』を協議の柱として話し合いを行った。話し合いでは、今回の授業でタブレット（熊本市教育センター作成の献立作成プログラム）を使ったという点や授業の中での栄養教諭関わりなどは効果的であったのか。普段、食事作りの学習で悩んでいる点などを中心に意見が出された。

・栄養のバランスの学習では、黄・赤・緑の3種類をとることは必要だということを押さえやすいが、その3種類の量を捉えさせることに今まで難しさを感じていた。しかし、今回、6等分した長方形を一食分の献立に例えて3種類量を捉えさせた点は子どもたちにとっても身近でイメージしやすいため、とても分かりやすく捉えやすかったと感じる。

・タブレットで示している●の目安は野菜を1食50g（緑4つ）を基準にしてあり、黄・赤・緑の量が9：3：6に近づくように栄養教諭に調整をしてもらい副菜カードや味噌汁の実の量を作成した。タブレットを操作するとすぐにそれぞれの量が表示されバランスが捉えることができるため、バランスを意識しながら献立を立て直すことができていた。

・副菜カードには給食に出る副菜を用いたことで献立を作成する際に、栄養バランスだけではなく味のイメージもしやすくなる点や、子ども同士の話し合いでそれぞれの副菜の良さを出し合いながら検討することができ、効果的であった。また、自分の好みの副菜を家庭でも食べたいという気持ちから家庭での実践を行う姿も見られ、家庭の実践にもつながっている。

・栄養を充たしている不足しているという立場の違いで説明の仕方が変わっていたため、献立を見せ合うときに説明する視点があると相手の説明

を理解しやすくなる。

・タブレットで操作を行い思考を整理→ノートに記録→話し合いという流れがスムーズだった。

・理想と現実の違い（問題）に気付かせ、子どもが目指すゴールを一緒に立て見通しをもたせることや、学びの足跡を掲示しておくこと、1時間目の導入がとても重要だと感じた。

2 指導助言

熊本大学大学院教育学研究科准教授 増田 仁 先生

栄養学者の香川綾さんの「実践なき理論は空しい。理論なき実践は発展しない。」という言葉からも理論と実践の往還が大事だと感じている。

社会学とは、社会とは何かとどのような社会が理想なのか等を考える学問の領域で、フランス革命の時に創設された。一方、家政学は、19世紀アメリカのレイクプラシッド会議に社会学者が参加し、社会科学として家政学が発祥したという歴史がある。社会学は分野が多岐にわたり抽象的でイメージしにくいのが、家庭科はイメージがしやすい。社会改善と生活改善の親和性がある。

家庭科の現状として、家庭科は好きな教科のランキングでも嫌いな教科ランキングでも最下位という結果が出ており、「関心が持たれていない」「あまり考えたことがない」教科になっている。興味・関心をもたれる教科にするためには、教養の家庭科・生存の家庭科この二つをやっていく必要がある。ほとんどの子どもたちは調理実習が好きであるが、家庭での家事時間は男子2分、女子4分と先進国の中でも低く、実習がイベントになっている。その点で今回の授業はさまざまな工夫がされており、ICTを使って個別で思考するだけでなくそれを生かして友達に言語化し、何をもって、どのような献立になれば「よりよい献立」といえるのかを考える家庭科となっていた。

中学生ぐらいから朝食を抜く生徒が増えるというデータも出ているので、小学校での献立の学習とか朝ごはんとか非常に大事である。時間数も中学校に比べ小学校は多いため、非常に重要な役割を果たしていくものと考えている。

I 研究の実際

学年・内容	6年	生活の課題と実践
題材名	生活を変えるチャンス！	

(1) 題材の目標

思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の仕事または家族・地域との関わりについて日常生活の中から課題を設定し、工夫して計画を立てる。 ・課題解決に向けて実践し、結果を評価、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事又は家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組む。 ・家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

(2) 研究の視点

視点1	課題設定	設定家族の1日から課題を見付け、自分の家庭の課題と結び付けることや、前回の実践からの気付きや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取り組みに生かすというねらいを明確にする。
視点2	指導の工夫	パワーアップポイントをもとに、自分の家庭や地域の人々との関わりの中での新たな課題へとつなぎたい。その時に、前回のレポートやこれまで学習してきた題材の振り返りシートから、気付きや改善点を共有し、アドバイスをし合うことで、持続可能で、よりよい生活の改善のヒントとなるようにする。
視点3	振り返り	今までの学習や、授業の終末を振り返ることで、実践に向けた意欲の向上と課題解決に向けた取組をよりよいものにする。課題と改善策はメタモジのシートにまとめ、モニタリング機能を活用しながら展開していくようにする。
ICT活用		これまでの家庭科の学習やをスライドで振り返ることで、どのようなことに取り組むことができるか考えるヒントとし、意欲を喚起できるようにする。また、蓄積している前回の実践からの気付きや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取り組みに生かすことができるようにする。

(3) 成果 (○) と課題 (△)

- 設定家族や前回の実践報告書を使いながら課題づくりを行ったことで、より自分の生活に合った課題を考えることができていた。
- 家庭科の「生活の営みに係る見方・考え方」や前回の実践の反省点から考えた「パワーアップポイント」を提示することで、持続可能な社会につながるか、継続できるかなどを考えながら計画をすることができていた。
- △課題の意見交流の時間をもっと確保したり、同じ領域の課題を設定した児童同士の交流を行ったりすることで、より考えを深めることができたのではないかな。
- △パワーアップポイントの設定を家庭科の窓の視点とリンクさせることでより整理できたのではないかな。

II 公開授業・授業研究会

公開授業 第6学年 「生活を変えるチャンス！」

1 公開授業の様子

この題材は、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を実践することにより、知識・技能を活用し、生活の課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することが目標である。授業者は授業をするにあたり、この目標を目指すことに加え、家庭科の窓で示されている「協力」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」という4つの視点から生活を見つめていくことを大事にすると同時に、「SDGsの視点を大切にする」「活動が1回で終わるのではなく継続できる」「お手伝いでなく、自分が担当しているという意識を持つ」「家族の生活に興味を持つ」という思いを持って臨むようにした。

導入では、5年生から家庭科でどんなことができるようになってきたかを振り返り、これまでの「課題と実践」の学習カードを紹介した。また、昨年度の6年生の1回目と2回目の実践を比較することで2回目の実践ではどんな工夫がされているか確認した。このとき、パワーアップポイントとして視点を7点挙げ、それで実践をすると「環境・衣生活・食生活・住生活」の、どの分野

がよりよくなるのかを示している。このあと、設定家族のスライドを見ながら気付きや問いを出し合った。「寝るときに暖房をつけっぱなしに

している。」という問題に対して、「掛け布団をすれば解決するよ。」「暖房のつけっぱなしをやめることは環境のことも考えているからパワーアップポイントのSDGsになるね。」というように、解決の具体例を出し、それはどのパワーアップポイ

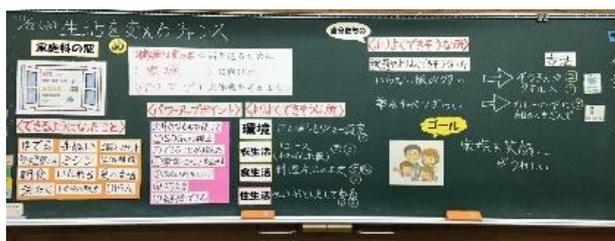
ントを取り入れたことになるのかということ全体を確認した。その後、個別で時間を取り自分の家の問題を見付け、課題を設定し、その解決策を考えていった。

次に、3人組になり互いの課題と解決策を紹介してアドバイスをもらうという活動に入った。「妹がニンジン嫌いだから

好きな食べ物に混ぜようと思うんだけど。」「妹が好きな食べ物って何?」「ハンバーグとかは?」「ニンジン小さくして入れられるんじゃない?」といった内容の対話が子どもたちの間で交わされていた。

終末、代表児童の発表を聞き合った。「家族全員の課題です。いらぬ服が多くなったから雑巾やタオルにしようと思います。」それに対し教師から「これは何番のパワーアップポイントなのかな。家庭科の窓からどんな見方をしているのかな。」という発問があり「SDGsの視点です。」「『持続可能な社会』で見えています。」といった返答が児童から挙がった。それからもう一度個人の設定した課題に戻り、どのパワーアップポイントなのか、どんな見方で生活をよりよくしていこうとしているのかをワークシートに記入した。

最後に、教師から「みんなが考えた解決策を実行すると家族はどうなるでしょう。」という問いに対して「笑顔になる。うれしくなる。」といった言葉が挙がり、それをこの単元の目標にすることで締めくくった。



2 研究協議

研究協議会では、「課題と実践における、効果的な課題設定の仕方」を協議の柱として話し合いを行った。そもそも「課題と実践」は、A 家族・家庭生活の項目で、問題を見いだして課題を設定し、それを解決することをねらいとしている。

- ・「課題と実践」は他の単元と比べておまけのような捉え方をされているようで、まだ認知が低く、実践している学校は半数ほどであった。
- ・今回の授業に出てきたパワーアップポイントは5年生の実践から向上させるために、今回の設定家族や取り上げた実践に合わせて教師側で設定した。
- ・設定家族があることや授業者が実践例を紹介することで、児童にとっては取り組みやすかったと考えられる。苦手な食材の調理法を工夫するといった例をもとにした意見が多い中、ある児童がいらなくなった服を使って巾着をつくる意見を出していた。児童の例を取り上げる際に、幅広く取り上げることでいろいろな課題に目が向くのではないか。
- ・「友だちからアドバイスをもらおう」という対話活動があったが、児童は生活経験がまだ浅いこともありアドバイスすることが難しいのではないか。アドバイスし合うこと以外にどんな対話活動が適切なのか考えていきたい。
- ・児童に経験がないから実践に結びつかない。授業で終わるのではなく、週末の宿題にするなどして経験値を増やすことが大切だ。
- ・問題と課題が混在している。「問題」は現状でうまくいっていないこと、「課題」は理想とする姿に向かう具体的な行動。今回の授業では設定家族と自分の家族を比較しながらよく問題点を見付けていたので設定家族を取り上げたのは有効であった。
- ・パワーアップポイントと家庭科の窓（4つの見方・考え方）の内容がより一致していれば、児童がアドバイスする際に視点がぶれることなく有効に働いたのではないか。

3 指導助言

熊本大学大学院教育学研究科准教授 中迫 由実 先生

パワーアップポイントと家庭科の窓の視点をリンクさせることは有効だと思う。児童は、ICTをスムーズに使っており、熊本市が早くからタブレットを児童に配布していた成果だと思われる。今回の授業は2年間の集大成のような形なので、導入で画像や学習カードを児童に見せたことは振り返るよいきっかけになっていた。実践は児童の実生活に基づいて行われるものなので、教師がいろいろな児童の意見を取り上げ、時間の許す限り全体に共有できるといいであろう。このような授業は「問題に気付く」ことが重要であり、既習事項やこれまでの経験、他者との比較があると気付きやすい。よって、太郎さんの家族という設定家族は効果的であった。パワーアップポイント7番目「継続」はとても大事な視点である。どんな実践も継続するのが難しいし、SDGsでも言われている。また、このような自分の家庭について語る際、プライバシーへの配慮が重要だと思われる。住生活において「住まいは人権である」という言葉があるが、授業中もその点を十分に配慮するべきであろう。



小学校で学ぶ内容が大人になって土台となるように、楽しく、課題を発見したり解決したりできるような授業を期待したい。

4 参加者の声

- ・家庭科の窓をもとにパワーアップポイントを考え、5年生の時に行った実践からパワーアップできる場所を見付け課題を考えていくことを学びました。
- ・板書のめあて、家庭科の窓やパワーアップポイントがとても見やすく、わかりやすかったです。まとめ→よりよい生活に向けて前向きに取り組んでいける流れでした。課題解決に向けての話し合いでは、食・調理に関する内容も多く出ていて食への関心が高く、いいなと思いました。

I 研究の実際

学年・内容	5年	衣生活
題材名	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	

(1) 題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 安全なミシンの使い方を理解し、正しく使うことができる。 丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見つめ直し、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考えることができる。 実践を評価・改善し、自分の考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活をよりよくするための課題を見付け、改善しようと主体的に取り組む。 実践を振り返り、改善したりして、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。

(2) 研究の視点

視点1	課題設定	題材導入時に「世界に一つだけのエプロンを作ろう」という題材を通してあてを設定することで意欲を喚起するとともに、そのために必要な技能や準備・製作計画を自ら考えることができるようにする。
視点2	指導の工夫	実物や見本、段階写真を提示し、見比べることで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとに考えた縫う順番や工夫について交流し、製作手順の根拠に気付かせることで、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。
視点3	振り返り	生活を振り返り、生活に学びを生かすという教科の特質から、振り返りシート（メタモジ）を活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行い、自分の生活の変化や成長を実感できるようにする。また、製作の様子を画像で記録し、改善点を記入することで、次の製作に生かすようにする。
ICT活用		ミシンの使い方のプレゼンテーションを毎回見ることで、ミシンの使い方の定着を図る。また、電子黒板を使って、見本の拡大写真を見ながら、全体で確認ができるようにする。

(3) 成果（○）と課題（△）

- 第1時でミシン縫いのよさに気付き、ミシンでエプロン作りをすることを決め、どのようなことができるようになるかと自分たちで考え、製作計画を立てることができた。
- 第2～4時では、ミシンの各部の名前、安全な使い方、気を付けることなど最小にとどめ、ミシンに触れる時間を多くとった。そのことで、ミシンに対する恐怖心が減り、製作に進むことができた。
- 第6時で紙のミニエプロンを使って、裁ち切り線、できあがり線、三つ折りの仕方を理解し、布での製作に生かすことができた。また、紙を使うことで試行錯誤がしやすく、扱いやすかった。
- 第7時では、1学期の手縫いで作った名札ケースの活動を振り返り、「丈夫」「長持ちする」などの観点を取り上げることができるとともに、学び方の獲得につなげることができた。

○第7時では、縫う順番や縫い方の工夫について、「なぜそうするのか」を問い、見本の観察を通して、丈夫に長く使うための縫い方や作業のしやすさなど、エプロンにとどまらない活用可能な知識・技能を獲得させることができた。

△第7時で、グループで手順を考える時間や見本を渡すタイミングなど、より対話が深まる工夫があるのではないか。

(4) 指導と評価の実際 (12時間取り扱い ●本時7 / 12)

指導と評価 (12時間取り扱い)				
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
世界に一つだけのエプロンを作ろう	1	1	○ミシン縫いと手縫いの違いを考えたり、身近なミシン縫いの布製品を観察したりして、ミシン縫いのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
	2	2 3 4	○手縫いの時と比べながらミシン縫いで必要な部分の名前を知る。安全なミシンの縫い方について知り、直線縫いをする。「ミシン針」「はずみ車」「押さえ(レバー)」「コントローラー」「電源(スイッチ)」 ○「返し縫い」「角の曲がり方」の仕方を知り、縫う。 ○ミシンの糸かけの仕方が分かる。	【知】②③観察・作品 【主】①振り返りシート
		5 6	○エプロンにふさわしい布を選ぶ活動を通して、いろいろな布の特徴の違いや種類に気付く。 ○必要な布の大きさや布端の始末の必要性を理解する。	【知】①学習シート
	3	7 (本時)	●見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。 	【知】①学習シート 【思】①学習シート
		8 9 10. 11.	○製作計画に沿って、製作する。 ①布にしるしをつける。 しつけをする。 ②直線縫いをする。 ③かざりやポケットをつける。 ④アイロンをかけ、ひもを通す。	【知】②③観察・作品 【思】②学習シート 【主】②振り返りシート
	4	12.	○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。	【思】②学習シート 【主】②振り返りシート

II 公開授業・授業研究会

公開授業 第5学年 「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」

1 公開授業の様子

本題材では「世界に一つだけのエプロンを作ろう」という題材を通してめあてを設定し、これまでに、手縫いと比べることでミシン縫いのよさに気づき、直線縫いの仕方について学んできている。

授業前の隙間時間に行われたミシンクイズや前時の振り返りでは、授業を楽しみにしている子どもたちの姿が見られた。授業導入では題材のゴールである「世界に一つだけのエプロン」とはどのようなエプロンかを出し合った。子どもたちからは、「丈夫」「自分に合う」「ずっと使える」「きれい」といった意見が出された。そのようなエプロンを作りたいという、子どもたちの思いを共有することで、本時のめあてである「縫う順番と工夫を考えよう」につながられた。

そこで、縫いしろのある紙のミニエプロンを手にして、どの部分を縫うのか、どの順番で縫うかを班で話し合う場が設けられた。どの班も「下から縫うのかな」「斜めが最初じゃない？」など意見が分かれたり考えがまとまらなかったりしていたが、完成見本のミニエプロンが配られると、子どもたちは食い入るように見本を観察し、自分たちが予想していた順番と比較することで、理由付けを明確にすることができ、縫う順番を実感できたようだった。さらに、縫う過程が分かる5枚の



写真カードには製作時に間違いやすいダミーを準備することで、手順の意味も考えることができた。次に、工夫を見つけ

る場面では縫い方の工夫が分かる比較見本を配付し、返し縫いの必要性やひも通しの部分の縫い始めと縫い終わりを丈夫に縫う工夫などを見いだすことができた。さらに、教師が裾の部分に着目した子どもの意見を取り上げることで、裾が大きく折り曲げてある理由が成長に合わせて長さを調整でき、長く使えるようにするためであることにも子どもたちは気付くことができた。子どもたちが『丈夫』で『長く使える』世界で一つだけのエプロンを作りたい」という課題に常に立ち返ることができるような指導がなされ、子どもたちは自らの課題を解決しようと主体的に取り組むことができた。最後に、分かったことや工夫することをタブレットの学習アプリで作成した学習シートに一人一人がまとめることができた。

本時の学びを振り返る場面では、「エプロンを作るときに様々な工夫がある」や「(比較見本を比べることで) 丈夫さのちがいが分かりました」と今日の学びを振り返ったり、「今日見つけた工夫を生かして作りたい」というこれからの展望をもつことができたりと子どもたちの振り返りから子どもたちの意欲が感じられた。



2 参加者の声 (授業研究会より)

- ・子どもたちの中に「世界に一つしかないエプロン」を作ろうという気持ちがどんどん高まるような授業の流し方だった。
- ・最初に紙エプロンを与えて、その後見本を渡すなど、子どもたちが試行錯誤して考え、そして比べて、実際に見て「なるほど」と気付くなど、この順番がよかったと思う。
- ・準備が大変そうだが、キット教材ではなく型紙にこだわってやってみたいと思う授業だった。

1 研究協議

協議の柱

「製作題材における問題解決的な学習のあり方」
～視点2（1）思考力・判断力・表現力を育むための指導の工夫について～

Q すぐに完成見本を示さず紙エプロンを配布した意図は？ また、紙エプロンは事前にどんな指示で折らせていたのか？

A まずは紙エプロンで試行錯誤しながら考えてほしかった。悩んだ後に見本を見て児童が気付き、納得いくようなタイミングを見計らった。紙エプロンは、前時の布端の始末の必要性の時に三つ折りをおさえるために折っているが、順番には触れていない。

～視点2（3）教材・教具の工夫について～

Q 「手縫いの時に見つけた工夫」とあったが、手縫いの授業での工夫について教えてほしい。

A 同じような流れ（学習展開・教師の手立て）



で名札ケースを製作した。完成見本や比較見本を作り、出し入れ口やボタン付けは丈夫に縫う

必要性に気付かせたり、段階写真をメタモジで並べ替えさせたりして製作手順を確認した。

～視点3 振り返りの工夫について～

Q 「思考・判断・表現」をどう評価していくか？

A 対話や発言などの授業の様子や、紙エプロンや作品のほかに、児童が個々にタブレットのメタモジに書き込んでいる学習シートや毎時間の振り返りシートを活用していきたい。

参観者の感想 問題解決的な学習の工夫がいっぱいあり、見本を出す順番やタイミングがよかった。自分には足りなかったところに気付かされる授業の流れだった。少しでも真似をしてやってみたい。

2 指導助言

熊本市教育センター主任指導主事 廣瀬 文子 先生

熊本市では、平成25年の九州大会、令和元年の全国大会を経て今日の県大会を迎えている。九州大会では基礎的基本的な知識や技能を身に付けるためのスモールステップの学習のあり方を提案し、全国大会では学習指導要領で示



された3つの資質・能力を育成するために問題解決的な学習過程を研究の核としてきた。本大会では、課題設定の工夫やICTの活用、振り返りの充実、SDGsの視点も加えた提案であった。この10年間で求められる家庭科学習の内容は、基礎的基本的な知識や技能を確実に習得する学習から、試行錯誤しながら協働的に学び、課題を解決していく学習へと変化している。

今、求められる製作題材における学びは、子どもたちの思いや願いが込められた課題解決であること、人や文化とつながる学習にすることが大切である。したがって、子どもたちの学びにストーリー性を持たせ、リアルな課題解決を仕組んでいくことが重要になる。作品を完成させることのみが目的化された製作学習ではなく、「どのように作るのか。」「なぜ、そうするのか。」を理解し、理解したことができるようにする学習が求められている。また、学習指導要領の「よりよい実施」に向けて「問題を見いだして、課題を設定する」学習過程を充実させることは全国的な課題である。伊田先生は、第1時の授業を丁寧に扱い、子どもたちの思いを引き出しながら題材のゴールに向けた解決すべき課題や学習の見通しを明確にし、共に学習計画を作るなどの手立てがなされていた。本時では、操作活動や見本の観察を設定し、「なぜそうするのか。」を繰り返し問い返すことで概念的理解を促すとともに、学び方を獲得させられた。さらにICTを活用したデジタルとアナログの使い分けが効果的な授業であった。

I 研究の実際

学年・内容	5年	消費・環境
題材名	持続可能な暮らしへ	

(1) 題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について理解しているとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

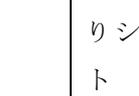
(2) 研究の視点

視点1	課題設定	今までの自分や家族の買い物を振り返り、失敗したと思う経験を出し合い、共有し合うことで、よりよい消費者になろうという題材のゴールを目指そうとする意欲を高めることができるようにする。
視点2	指導の工夫	ロイロノート内のカラーテキスト活用・お金の使い方の疑似体験・具体的な買い物の場面想定によって、児童の意思決定や表現・集約ができるようにする。
視点3	振り返り	振り返りシート（メタモジ）を活用したり、児童の記入例を全体で紹介したりすることによって、児童の振り返り意欲を高める。
ICT活用		具体的な買い物場面をスライドで振り返ったり、商品の品質表示の映像を共有したりすることで、家庭実践につながりやすくする。

(3) 成果（○）と課題（△）

- 第1時で今までの買い物の失敗を振り返ったり、第2時で家計のやりくりの疑似体験をしたりすることによって、本題材に対する関心を高めたり、お金のやりくりの大変さに気付いたりすることができた。
- 第3時において、具体的な買い物を想定し、売買契約の場面について考えさせることによって、売買契約によって発生する売り手・買い手に発生する義務についても理解を深めることができた。
- △ 第2時で扱った「家計支出シート」の項目や必要とするおはじきの数が実生活と異なる部分がある。しかし、あまり細かい設定にすると、小学生にとって難易度が上がってしまう。専門機関などのアドバイスをもらいながら、小学生に適した学習シートの修正が必要である。
- △ 第3時では、「店頭での筆箱購入」「電話でのピザ注文」での売買契約、「インターネット販売」での返品について扱った。他にどのような買い物場面があるのか、どのタイミングが売買契約になるのかを考えさせる活動を取り入れることで、より研究主題に迫る学習に近づくと考える。

(4) 指導と評価の実際 (6時間取り扱い ●本時3/6)

指導と評価 (6時間取り扱い)																						
課題	次	時	主たる学習活動	評価する 内容と方 法等																		
目指せ 買い物名人!!	1	1	<p>○教科書のイラストを見ながら、普段どのような場所でお金を使っているのかを考える。</p> <p>○今までの買い物を振り返り、失敗した経験を共有し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・欲しいものと違うものを買ってしまった。・同じものが家にあった。</p> <p>・安いものを買ったら、すぐに壊れた。・サイズが合わなかった。・・・</p> </div> <p>○消費者の役割や必要な物を手に入れる方法について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>学習の見直しをもう。</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>失敗したことはあまりないと思っていたけれど、ふりかえってみたら、意外と失敗が多くておどろいた。</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>これからは、予算や計画を立てて、買い物をしたいです。自分の失敗をなくするために考えて買い物をしたいです。</td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>学習の見直しをもう。</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>無駄遣いをしていたんだなあと思いました</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>その物にお金を使って本当にいいのかを考える</td><td></td></tr> </table> </div>	めあて	学習の見直しをもう。	自己評価	今日の学びは	失敗したことはあまりないと思っていたけれど、ふりかえってみたら、意外と失敗が多くておどろいた。	◎	これからは	これからは、予算や計画を立てて、買い物をしたいです。自分の失敗をなくするために考えて買い物をしたいです。		めあて	学習の見直しをもう。	自己評価	今日の学びは	無駄遣いをしていたんだなあと思いました	◎	これからは	その物にお金を使って本当にいいのかを考える		<p>【主】</p> <p>観察</p> <p>振り返りシート</p>
	めあて	学習の見直しをもう。	自己評価																			
	今日の学びは	失敗したことはあまりないと思っていたけれど、ふりかえってみたら、意外と失敗が多くておどろいた。	◎																			
これからは	これからは、予算や計画を立てて、買い物をしたいです。自分の失敗をなくするために考えて買い物をしたいです。																					
めあて	学習の見直しをもう。	自己評価																				
今日の学びは	無駄遣いをしていたんだなあと思いました	◎																				
これからは	その物にお金を使って本当にいいのかを考える																					
2	1	<p>○買い物（おはじき）ゲームを通して、お金の大切さについて考える。</p> <p>(設定家族の条件に合わせて、18個のおはじき(お金)の使い道を考える。その後、家族の事情によりおはじきが3個減る。どこから、おはじきを減らせればいいのかをグループで考えることによって、「お金のやりくり」の模擬体験をする。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>買い物ゲームをして、お金の使い方を考えよう。</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>いつも欲しいものを買って欲しい言っているけど、お母さんやお父さん日金のこともしっかり考えて返事をしてくれていたのでよかったなと思いました</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>しっかり家のお金の事を考えたい</td><td></td></tr> </table> </div>	めあて	買い物ゲームをして、お金の使い方を考えよう。	自己評価	今日の学びは	いつも欲しいものを買って欲しい言っているけど、お母さんやお父さん日金のこともしっかり考えて返事をしてくれていたのでよかったなと思いました	◎	これからは	しっかり家のお金の事を考えたい		<p>【思】</p> <p>観察</p> <p>振り返りシート</p>										
めあて	買い物ゲームをして、お金の使い方を考えよう。	自己評価																				
今日の学びは	いつも欲しいものを買って欲しい言っているけど、お母さんやお父さん日金のこともしっかり考えて返事をしてくれていたのでよかったなと思いました	◎																				
これからは	しっかり家のお金の事を考えたい																					
1 (本時)	1	<p>○買い物の場面を具体的に想起し、売買契約について学ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">③</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑥</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;"> 店に入る</div> <div style="text-align: center;"> 商品を選ぶ</div> <div style="text-align: center;"> はい</div> <div style="text-align: center;"> 代金を支払う</div> <div style="text-align: center;"> 商品を受け取る</div> <div style="text-align: center;"> 店を出る</div> <div style="text-align: center;"> 家に帰る</div> </div>	<p>【知】</p> <p>観察</p> <p>振り返りシート</p>																			
	2	<p>○買い物の方法、支払いの方法について学び、買い物をするとき、どのような情報を集め、整理し、どのように選ぶかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>買う時に必要な情報について考えよう</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>買う時はいろんなところに目をつけたりした方がいいのだと分かりました。必要な情報をしっかりと考えて無駄遣いしない。ようにしたい。</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>お金を計画的に使うたりお小遣い帳をつけたりしようとおもった。</td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>買う時に必要な情報について考えよう</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>私も買物で必要なものをさがってしまっていたことがあるから、今日の授業が勉強になって良かったと思うから、私も必要なものをさがす時に、何か買うときは、高値な商品に気をつけて買おうと思います。</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>これからは、買い間違いないように紙に書いておいたらサイズや色を紙に書いてから買い物をしたいです。</td><td></td></tr> </table> </div>	めあて	買う時に必要な情報について考えよう	自己評価	今日の学びは	買う時はいろんなところに目をつけたりした方がいいのだと分かりました。必要な情報をしっかりと考えて無駄遣いしない。ようにしたい。	◎	これからは	お金を計画的に使うたりお小遣い帳をつけたりしようとおもった。		めあて	買う時に必要な情報について考えよう	自己評価	今日の学びは	私も買物で必要なものをさがってしまっていたことがあるから、今日の授業が勉強になって良かったと思うから、私も必要なものをさがす時に、何か買うときは、高値な商品に気をつけて買おうと思います。	◎	これからは	これからは、買い間違いないように紙に書いておいたらサイズや色を紙に書いてから買い物をしたいです。		<p>【思】</p> <p>観察</p> <p>振り返りシート</p>	
めあて	買う時に必要な情報について考えよう	自己評価																				
今日の学びは	買う時はいろんなところに目をつけたりした方がいいのだと分かりました。必要な情報をしっかりと考えて無駄遣いしない。ようにしたい。	◎																				
これからは	お金を計画的に使うたりお小遣い帳をつけたりしようとおもった。																					
めあて	買う時に必要な情報について考えよう	自己評価																				
今日の学びは	私も買物で必要なものをさがってしまっていたことがあるから、今日の授業が勉強になって良かったと思うから、私も必要なものをさがす時に、何か買うときは、高値な商品に気をつけて買おうと思います。	◎																				
これからは	これからは、買い間違いないように紙に書いておいたらサイズや色を紙に書いてから買い物をしたいです。																					
	3	1	<p>○消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買い物と環境や資源との関わりを知る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>買う物する時に、環境のことあまり考えていなかった。これから買う物することがたくさん増えると思うので、この勉強を生かして買い物できるといいなと思います。</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>これからは、いろいろなものは買わないで、いるものだけ買おうと思いました。あと、環境のマークもしっかり見て買おうと思います。</td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>めあて</td><td>今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう</td><td>自己評価</td></tr> <tr><td>今日の学びは</td><td>マークがたくさんあってびっくり。私も買物する時は、マークを見たことがなかったから、これからは今日学習したマークを見つけてみたい。</td><td style="text-align: center;">◎</td></tr> <tr><td>これからは</td><td>失敗しない買い物を今日考えたので、それを使いたいです。</td><td></td></tr> </table> </div>	めあて	今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう	自己評価	今日の学びは	買う物する時に、環境のことあまり考えていなかった。これから買う物することがたくさん増えると思うので、この勉強を生かして買い物できるといいなと思います。	◎	これからは	これからは、いろいろなものは買わないで、いるものだけ買おうと思いました。あと、環境のマークもしっかり見て買おうと思います。		めあて	今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう	自己評価	今日の学びは	マークがたくさんあってびっくり。私も買物する時は、マークを見たことがなかったから、これからは今日学習したマークを見つけてみたい。	◎	これからは	失敗しない買い物を今日考えたので、それを使いたいです。		<p>【主】</p> <p>観察</p> <p>振り返りシート</p>
めあて	今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう	自己評価																				
今日の学びは	買う物する時に、環境のことあまり考えていなかった。これから買う物することがたくさん増えると思うので、この勉強を生かして買い物できるといいなと思います。	◎																				
これからは	これからは、いろいろなものは買わないで、いるものだけ買おうと思いました。あと、環境のマークもしっかり見て買おうと思います。																					
めあて	今までの学習を振り返り、環境のことを考えた生活について考えよう	自己評価																				
今日の学びは	マークがたくさんあってびっくり。私も買物する時は、マークを見たことがなかったから、これからは今日学習したマークを見つけてみたい。	◎																				
これからは	失敗しない買い物を今日考えたので、それを使いたいです。																					

II 公開授業・授業研究会

公開授業 第5学年 「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」

1 公開授業の様子

本題材では、「持続可能な社会の構築などの観点から、消費者として、物の選び方・買い方・使い方を考え、工夫しようとする」ことを学習のゴールに設定し、先に消費者の役割やお金の大切さについて学んできている。消費者には自分の考え方で物を選び、大事に使う役割があることを理解し、買い物ゲームを通して普段は家族がする、お金のやりくりの難しさを実感している。また、授業の終わりにメタモジの振り返りシートを活用して児童の振り返りを全体に紹介することによって、学びを共有するとともに児童の振り返り意欲を高めてきた。

本時では、授業の最初に、買い物ゲームをした前時の振り返りをクラスで共有してから学習に入っている。その後、筆箱を購入するという身近な場面を取り扱った買い物の各場面の写真を掲示し、買い物の具体的な場面を想起しやすくした。場面の最後は買い物から帰宅した直後にまだ使える筆箱が見つかり、新しい筆箱を購入したことを後悔する様子であった。「買った筆箱は返品する」という子どもの発言をきっかけに、返品はお店の厚意によるものであることをおさえ、本時のめあて「できるだけ返品しない買い物について考えよう」を設定した。



先に提示した場面ごとの写真の間に色付きの番号をふり、「どこ(何番)までだったら、返品にならないと思う?」と問いかけ、自分の考えをロ

イノートのカラーテキストで提出させた。「代金を払う前」と「商品を受け取る前」までであれば返品にならないと考える児童が多かった。その後、提示している写真を使って返品不可になる時点を示し、売買契約という語句とそのタイミングや買い手・売り手の義務についておさえた。売買契約が成立してしまうと返品できないことから、児童は「店に行く前に家の中を探せばよかった」「商品を選ぶときに慎重に考えればよかった」とできるだけ返品しない買い物について考えることができていた。

基本的な売買契約についての知識をおさえたところで、具体的場面を提示しながら店舗販売以外の電話注文やインターネット売買における売買契約の学習へと発展させていった。子どもたちは「この時点で売買契約が成立しているからキャンセルできない」などと、先に店舗販売の場面で学習した売買契約についての知識を活用して考えることができていた。そして、インターネットでの買い物における実際の画面を表示することで、本来、お店の厚意である返品を簡単にできるとしている記述に注目させた。企業の方の話を動画で視聴し、返品することは消費者として好ましくない行為であることを実感できるようにした。



最後に学習の振り返りを記入したが、契約終了後の返品はお店の厚意であることや、売買契約について理解できていた。また、返品経験のあった児童は本時の学習を踏まえて「今後は本当に必要なのかよく考えて買い物をしたい」と題材のゴールである「限りある資源や金銭に配慮した消費生活」に対して意欲を高めることができていた。

2 研究協議

研究協議では、『売買契約』に関する指導の工夫・場面設定」を協議の柱として話し合いを行った。話し合いでは、4年前の全国大会で行った授業と本時の比較や実感を持った学び、場面設定について質問・意見が出された。

・売買契約の理解という知識習得をねらいとした授業だったが、子どもたちは思考を深めることができていた。教え込みの授業ではなく、考えながら知識理解を得られる授業になっていた。

・授業前半に店舗販売の具体例をつかって売買契約についておさえ、後半で電話注文やネット販売の場면을提示することで、子どもたちはそれらの場面における売買契約のタイミングについても納得することができていた。後半は「ほかに具体的な場面ってどんな時？」と呼びかけ、子どもたちから場면을提示させると、子どもたちの経験や日常生活に即した、より実感をもった学びになることが期待される。

・以前の授業では本屋での本を予約した場면을提示したが、子どもの中で身近でなかったことや買い物に失敗したときに「メルカリで売る」という選択肢を持っているということから子どもたちの生活にネット販売は切り離せない実態にある。小学校の学習では現金での売買を中心としているが、子どもたちの実態・現状を踏まえて、今回はネット販売を取り扱った。

3 指導助言

熊本大学大学院教育学研究科教授 八幡 彩子 先生

売買契約の学習内容は平成29年の学習指導要領改訂で中学校から下りてきたものである。そのため、中学校との系統をいかに図るかが重要になってくる。小学校では店舗販売を中心に買い物の仕組みと消費者の役割、中学校では無店舗販売が加わり売買契約の仕組みと消費者の権利と責任について学習することになっている。消費者トラブルの多発を背景に、消費者教育は重要度が増してきており、中学校との系統を念頭に置きながら、学習過程をどのように構造化するかが重要で

あり、生活の中から問題を見だし、課題設定、検討、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を構造的に組み立てる必要がある。その学習過程を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、よりよい消費生活を送ろうと工夫する資質・能力を育みたい。



本時で提示された場面においては、家に筆箱があるか確認せずに店に買い物

に行ったことが問題であった。その文脈において売買契約の仕組みを学習することで、なぜ計画的に物を購入することが必要なのか、計画的に物を購入することの必要性やよさを理解させることができる。まとめでは、今回の学習を踏まえた言葉を使って「契約を結ぶと簡単に取り消し(返品)ができないから(理由付け)、本当に必要か考えて売買契約を結ぶ必要がある」とすると、売買契約の仕組みを学習したことをもとに課題解決を図るまとめ方になったのではないだろうか。買い物について様々な選択肢がある中で、よりよい買い物ができるように「汎化」を促すまとめや振り返りの工夫が重要である。多様な購入手段や幅広い商品の購入へと汎化を促す今後の授業づくりを期待したい。

4 参加者の声

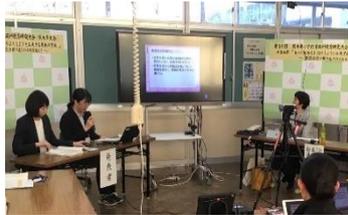
- ・先日、授業で同じ場面をした時に、売買契約が成立する場面の理解が子どもたちにすっきりとは落ちず、難しかったので、このようなやり方を提示して頂き、大変勉強になりました。
- ・教科書に載っていない実態に合った事例で授業をされていたので、勉強になりました。また、3つのパターンが用意されていたため、場面ごとの売買契約についてしっかりと考えることができたのではないかと思います。
- ・買い物の場面がいくつか出てきて時間いっぱい考えることができたと思います。前時も見てみたかったです。

Ⅲ 全体会

1 研究発表

研究主題を「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」とした。「自らの生活をよりよくしようと工夫する」とは「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて生活を創意工夫することである。

研究の仮説として、子どもの生活に近い設定家族の提示と課題設定、それを解決する学習、自分の成長や生活の



変容を実感できる振り返りをすれば、自らの生活の問題に気づき、生活をよりよくしようと工夫する子どもが育つであろうと考えた。そこで、「課題設定の工夫」、「指導の工夫」「振り返りの工夫」の3つを研究の視点とした。

視点1「課題設定の工夫」では、設定家族をもとにした学びを行った。

視点2「指導の工夫」では、(1)思考力・判断力・表現力を育むための状況設定の工夫、(2)学びを深めるための対話的な活動、(3)教材・教具の工夫、(4)SDGsの意識づけ、を行った。

視点3「振り返りの工夫」では、学習支援アプリ(メタモジ)を活用し、題材を通した1枚の振り返りシートに蓄積していった。

成果としては、①設定家族で共感的に課題を見付けられるようになった。②学習のゴールを考えることで主体的な学習ができた。③見本や栄養バランスチェック表等の利用で思考が深まった。④1枚の振り返りシートにすることで成長が自覚しやすくなった。今後の課題としては、①生活により重ねやすいスライドの改良が必要である。②さらに家庭とつなぐ工夫が必要である。③実践の情報を共有することでよりよい指導の工夫を作り上げていく。④振り返りシートの記述の向上を図るための工夫が必要である。

2 指導講評

熊本県立教育センター

指導主事 高宮かおり 先生

児童に「生きる力」を育むという目標に向けて、社会の変化を見据えた新たな学びへと進化している今、私たちは「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業改善をしていかななくてはならない。平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査結果から、問題解決的な学習の一層の充実が今後の課題として挙げられ、小学校家庭科に求められている。

本大会の主題にある「課題設定の工夫」や「振り返りの工夫」は、家庭科の学習過程の中でも大切な部分でもあり、教師の悩みでもあるニーズの高い研究内容である。私たちが目指す日常生活の課題解決に主体的に取り組み、理解したことや身に付けた力を実生活や実社会で生かしたり、実践しようとしたりする態度を育てるための肝となる研究である。

本大会の公開授業において、「5年衣生活」では、縫う順番や工夫についてその根拠まで明確



にすることで学びを深めていた。「6年食生活」では、中学校へのつながりも含めた栄養チェックシートや栄養教諭からのアドバイスを活用し、よりリアル感のある学習になっていた。「5年消費・環境」では、企業の方の話を動画で聞き、消費者としての自分の行動を真剣に考えていた。「6年課題と実践」では、自分や家族のために自分にできることを一生懸命に考えている姿があった。

これから取り組んでもらいたいことは、指導と評価の一体化である。児童の学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに児童自身が振り返り、次の学習に向かうことができるようにぜひ意識して取り組んでほしい。また、学習指導要領のよりよい実施を目指して、今までの授業実践を見直し、これからの授業実践につなげ、実践の質を高めてほしい。

令和5年度 熊本県小学校家庭科教育研究大会 熊本大会 運営組織図

大会期日:令和5年11月22日(水)
大会会場:熊本市立川上小学

大会事務局	
実行委員長(市会長)	村上利美(吉松)
事務局長	古江宜子(泉ヶ丘)
	(県) 金子紀子(託麻原)
総務部長	古江宜子(泉ヶ丘)
研究部長	中村晴海(春竹)
	牛島めぐみ(若葉)
広報部長	大廣絃子(城東)

県会長	県会長 古家慎也(川上)
市会長	市会長 村上利美(吉松) 実行委員長
副会長	県副会長 川中 雅代(川口)
	堀川 誠治(春竹)
	市副会長 中嶋哲也(桜木東)
	松本至道(城山)
	山口佳代(楠幼稚園)

顧問・アドバイザー	
熊本大学教育学部家庭科	八幡彩子 教授
	宮瀬美津子 教授
	中迫由実 准教授
	増田仁 准教授
県立教育センター	高宮かおり 指導主事(全体会議)
市教育センター	廣瀬文子 主任指導主事

運営委員会	
会長、副会長、各部長、各主担当◎	

実行委員会	
会長、副会長、各部長、各主担当◎、各役員、顧問等 (各校家庭科主任・・・拡大実行委員会のみ)	

ICT支援	
市教育センター	ICT支援員

各支部	
*会員数に応じた参加期待数を呼びかける。	

総務部(古江)				授業研究部(中村・牛島)					広報部(大廣)			
全体計画、大会運営、全体会議運営、会場、会計、来賓対応等				授業づくり、指導案・資料作成、分科会(授業研究会)運営、授業記録					大会紀要作成、大会記録・写真、ICT関連			
運営	庶務	渉外	会計	領域	食生活	課題と実践	消費・環境	衣生活	大会紀要	記録・広報	ICT	
全体計画、全体会議運営、実行委員会、各種発送	派遣依頼・礼状作成、受付名簿、全体会議進行	諸礼、会場設置、駐車場、接待	予算、予算執行、決算		6年	6年	5年	5年	原稿依頼、紀要(デジタル版)作成、HP掲載	全体記録・写真撮影、大会まとめ作成	各会場ICT機器準備、全体会議配信	
◎古江宜子(泉ヶ丘) 金子紀子(託麻原)	◎山口佳代(楠幼稚園) 三宮智恵(託麻原)	◎西田真由美(川上) 木下八枝子(大江) 長尾豊美(川上) 湯茶 森泰子(画図)	◎小山彰子(春竹) *市会計 西川瑞恵(清水) *県会計	担当者	◎清水太佳子(白山) 大廣絃子(城東)	◎牛島めぐみ(若葉) 古江宜子(泉ヶ丘)	◎金子紀子(託麻原) 三宮智恵(託麻原)	◎中村晴海(春竹) 寺澤まゆみ(託麻原) 西川瑞恵(清水)	◎大廣絃子(城東) 阿蘇品浩子(桜木) 寺澤まゆみ(託麻原)	◎宮崎紀子(力合西) 吉田由美(城西) 西川瑞恵(清水)	◎阿蘇品憲治(飽田南) 田中玲衣(託麻原) 松木美玲(託麻北) 三井優子(白山) 平井美羽(武蔵) 河端有紀(楡木) 坂本洋平(碩台) 川上小職員	
		川上小職員・PTA		授業者	板倉富美江(川上) 長尾豊美(川上)	小園裕太郎(泉ヶ丘)	松島慧(託麻原)	伊田朱里(川上)				
				サポート	阿蘇品浩子(桜木) 木下八枝子(大江) 小山彰子(春竹) 吉田由美(城西)	阿蘇品憲治(飽田南) 湊純子(本荘) 三井優子(白山) 河端有紀(楡木)	荒尾諭美(田迎南) 吉田恵(城北) 田中玲衣(託麻原) 西田真由美(川上) 平井美羽(武蔵)	森泰子(画図) 宮崎紀子(力合西) 松木美玲(託麻北) 米村志保(春竹) 古江杏菜(富合) 坂本洋平(碩台)				
						助言者	増田仁(熊大准教授)	中迫由実(熊大准教授)	八幡彩子(熊大教授)	廣瀬文子(市センター主任指導主事)		
				担当校長	川中雅代(川口)	中嶋哲也(桜木東)	松本至道(城山)	堀川誠治(春竹)				
総務部総括 村上利美(吉松) 山口佳代(楠幼稚園)				授業研究部総括 川中雅代(川口小)・堀川誠治(春竹小)・中嶋哲也(桜木東)・松本至道(城山)					広報部総括 古家慎也(川上)			

今後の小家研県大会について (R3 年度了承済)

年度	県大会	九州・全国大会	備考
令和元年度	熊本市	九州大会 (熊本) 全国大会 (熊本)	
令和2年度		九州大会 (大分) 全国大会 (東京)	
令和3年度	阿蘇 (紙面発表)	九州大会 (佐賀) 全国大会 (宮城)	
令和4年度	八代 (紙面発表)	九州大会 (長崎) 全国大会 (京都)	
令和5年度	D 熊本市	九州大会 (鹿児島) 全国大会 (神奈川)	研究テーマや理論について提案 指導案を4本提案
4年に1回、熊本市が開催			
令和6年度	B 山鹿、菊池	九州大会 (宮崎) 全国大会 (三重)	熊本市の提案の検証授業 (熊本市の追試) 公開授業は最低2本
令和7年度	A 荒尾・玉名	九州大会 (福岡) 全国大会 (徳島)	
令和8年度	F 天草、宇城	九州大会 (沖縄) 全国大会 (沖縄)	
令和9年度	D 熊本市	九州大会 (熊本) 全国大会 (東京)	次期学習指導要領改訂の移行期間 の可能性
令和10年度	C 阿蘇、上益城	九州大会 (大分) 全国大会 (岩手)	

●熊本県小学校家庭科教育研究会ホームページに
第54回熊本県大会(熊本市大会)に関して、以下
の情報を掲載しています。

- ・県大会案内
- ・県大会紀要
- ・指導案
振り返りシート
設定家族(太郎さん)スライド
- ・報告書

今後も、県大会及び県家研に関する情報は、ホーム
ページに掲載していく予定です。

- ・評議員会に関する資料
- ・全国、九州理事会報道 等

右記QRコードからご確認ください。

県家研HP



*現在、リニューアルに向け作業中
のため、URLの変更が生じた際は、
ご連絡いたします。

ブロック分け

地区名	学校数(R4)	ブロック
荒尾・玉名	37	A
山鹿	10	B
菊池	31	
阿蘇	17	C
上益城	23	
熊本市	96	D
八代市、八代郡	26	E
人吉・球磨	29	
芦北・水俣	13	
天草	32	F
宇城	22	

* D (R5) ⇒ B ⇒ A ⇒ F ⇒ D (R9 : 九州) ⇒ C ⇒ E
⇒ B ⇒ D (R13) ⇒ A ⇒ F ⇒ C ⇒ D (R17 : 九州)